

2026 年 3 月 24 日

データサイエンス教育運営委員会 委員長 竹内 秀一

2025 年度 データサイエンス教育 自己点検・評価報告書

本学の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)として、2021 年度に「データサイエンス・スタンダード」(以下「DSS」)を開設し、2022 年 8 月に文部科学省より 2027 年 3 月 31 日までの期限で認定を得た。また、2022 年度より経済学部では同プログラムの応用基礎レベル(以下 DSAE)を開設し、経営学部でも同様に応用基礎レベル(以下 DSAB)を開設し、それぞれ 2023 年 8 月に文部科学省より 2028 年 3 月 31 日までの期限で認定を得た。

以下に、データサイエンス教育運営委員会(以下「DS 委員会」)による各プログラムの自己点検・評価について報告する。なお、担当教員に対するアンケート回答数は、DSS 19 名/38 名対象、DSA 5 名/10 名対象である。

I. DSS

1. 学内からの視点

① プログラムの履修・修得状況

今年度の履修登録者数および修了者数は下表のとおりである。

学部	学科等	学年	登録者数	修了者数
経済学部	経済学部所属	1	126	54
		2	48	30
	経済学科	3	18	8
		4	6	2
	国際経済学科	3	6	2
		4	3	2
学部小計			207	98
経営学部	経営学部所属	1	63	19
		2	38	16
	経営学科	3	43	25
		4	10	2
		流通マーケティング学科	2	9
	3		5	2
	4		3	0
学部小計			171	70
コミュニケーション学部	メディア社会学科	1	8	0
		2	15	7
		3	3	2
		4	2	1
	国際コミュニケーション学科	1	3	3
		2	0	0
		3	3	0
		4	0	0
		コミュニケーション学科	4	0
学部小計			34	13
現代法学部	現代法学科	1	32	2
		2	38	2
		3	15	2
		4	4	1
学部小計			89	7
キャリアデザインプログラム		1	2	0
総計			503	188

② 学修成果

昨年度と比較すると履修登録者数は約 25%増加し、一昨年度と比較しても約 14%増加した(2023 年度 441 名⇒2024 年度 400 名⇒2025 年度 503 名)が、修了者数はほぼ同水準(2023 年度 167 名⇒2024 年度 168 名⇒2025 年度 188 名)であった。昨年度と同じく履修登録者数・修了者数共に、1 年次が半数近くを占めている。また、経済学部および経営学部の履修登録者数合計が約 75%であるのに対して、両学部の修了者数合計が約 90%を占めている。これは現代法学部の履修登録者数が増えた一方で、同学部の修了者数が少なかったためである。

加えて、1 年次の履修登録者数(234 名)は 1 年次生全体(1665 名)の約 14%(昨年度は 1619 名中 225 名の約 14%)であり、そのうちの約 40%(78 名)が修了しているに過ぎない。履修登録者数・修了者数のどちらも多い数値とは言えないであろう。

したがって、昨年度に引き続き、1 年次のみならず 2 年次以降についても履修登録者数が増えるように努めることと、経済学部・経営学部以外の学部等の修了者数の増加を目指す必要がある。まずは、履修登録者数が増えるよう更なる改善を検討していく。

③ 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

DSS の認定のために開講している各科目の授業アンケートにおいて学生の理解度を個別に確認している。DS 委員会においても、教員アンケートにより DSS の教育プログラムとしての確認をし、引き続き次年度に向けて改善・向上について検討していく。

④ 学生アンケート等を通じた他の学生への推奨度

全学的な学生アンケート調査に DSS に関する特別な項目はなく、DSS の履修登録をしていない学生からの要望等は把握できていない。ウェブページやパンフレット等の作成により一定の広報(推奨)効果があると思われるが、全学的な履修率向上に向けて改善策を引き続き検討していく。特に、コミュニケーション学部および現代法学部の学生に対しては履修率向上について、さらに踏み込んだ改善策が必要と思われる。

⑤ 全学的な履修登録者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

前述の表は、単年度の履修登録者数であることから、1 年次で既に DSS を修了済みの学生が多くいることによる履修率減少要因もあるが、全学年での履修率では申請時の計画を下回っている(DSS 認定申請時の履修率の目標は令和 7 年度で 15%に設定していることに対して、2025 年度の実績は全学生 6,788 人中の 503 人であるので約 7%となる)。ただし、1 年次での履修率は昨年度までと同様に今年度も約 14%であり、今後ともこの水準で履修率が推移すれば、令和 7 年度まで(令和 8 年度以降も同様)の到達目標である 15%をほぼ達成できるものと見込んでいる。

2. 学外からの視点

① 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

DSS は 2021 年度から導入した教育プログラムであるが、2025 年度までに修了した卒業生はまだ少数である。そのため、DSS 修了者についての評価には適していないと判断されるが、2026 年度以降にはなるが早期に調査する予定である。

② 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本委員会主催の FD 開催時における学外講師からの評価、関連する学外の産業界が主体となる団体との交流、学会などでの意見交換、数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムのワークショップなどにより、本教育プログラムの学外からの視点を確認し、改善に向けて FD 等を通じ関連する教員に継続的に周知を図っている。

3. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

本年度に実施した担当教員アンケート調査の結果から、数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることについて、回答した 19 名の教員のすべてが対応している（「部分的に対応している」を含む）ことを昨年度までと同様に確認した。今後とも担当教員への FD 等を継続的に実施し、さらに本教育プログラムに関する教育研究センターを設置すること等により、数理・データサイエンス・AI に関する教育方法を改善・向上させていくことが課題である。

4. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

本年度の担当教員アンケート調査の結果から、回答した 19 名すべての教員が対応していることがわかるが、引き続き改善・向上を目指すことも必要と思われる。この点についても、FD 等を継続的に実施するとともに、本教育プログラムに関する教育研究センターを設置する等により、教育方法をさらに改善・向上させていくことが課題である。

II. DSAE

1. 学内からの視点

① 教育プログラムの履修・修得状況

今年度の履修登録者数および修了者数は下表のとおりである。

学科等	学年	登録者数	修了者数
経済学部所属	1	2	0
	2	25	3
経済学科	3	26	3
	4	10	5
国際経済学科	3	7	1
	4	5	1
合計		75	13

② 学修成果

昨年度に比べ、履修登録者は約 14%増えており、修了者数も 3 年連続で 2 桁を達成したが、本教育プログラム開設 4 年目であることもあり、履修登録者数・修了者数共にまだ少ないので、引き続き計画的な履修を勧めることなどで対応を検討していく。

③ 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

DSAE の認定のために開講している各科目の授業アンケートにおいて学生の理解度を個別に確認している。DS 委員会においても、担当教員へのアンケート調査により本教育プログラムとしての確認をして、引き続き改善・向上について検討していく。

④ 学生アンケート等を通じた他の学生への推奨度

全学的な学生アンケート調査に DSAE に関する特別な項目はなく、DSAE の履修登録をしていない学生からの要望等は把握できていない。ウェブページやパンフレット等の作成により一定の広報(推奨)効果があると思われるが、経済学部における履修率向上に向けて引き続き改善策を検討していく。

⑤ 履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

昨年度に比べ、履修登録者は約 14%増えており、履修率は申請時の目標である 2.5%を上回った(経済学部生 2,244 名中の履修登録者数 75 名は約 3.3%)。今後もさらなる学生への周知を進め、履修率について一層の向上を目指す。

2. 学外からの視点

① 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

2022 年度から本教育プログラムの運用を開始したため、今後分析に適する修了者数となる年度に向けて、各項目についての把握を準備する。

② 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本委員会主催の FD 開催時における学外講師からの評価、関連する学外の産業界が主体となる団体との交流、学会などでの意見交換、数理・データサイエンス・AI

教育強化拠点コンソーシアムのワークショップなどにより、本教育プログラムの学外からの視点を確認し、改善に向けて FD 等を通じ関連する教員に引き続き周知を図っている。

III. DSAB

1. 学内からの視点

① 教育プログラムの履修・修得状況

今年度の履修登録者数および修了者数は下表のとおりである。

学科等	学年	登録者数	修了者数
経営学部所属	1	0	0
経営学科	2	14	1
	3	30	8
	4	6	3
流通マーケティング学科	2	6	0
	3	5	1
	4	2	0
合計		63	13

② 学修成果

昨年度に比べ、履修登録者は約 12%増えているが、本教育プログラム開設 4 年目であることもあり、履修登録者数・修了者数共にまだ少ないので、引き続き計画的な履修を勧めることなどで対応を検討していく。

③ 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

DSAB の認定のために開講している各科目の授業アンケートにおいて学生の理解度を個別に確認している。DS 委員会においても、担当教員へのアンケート調査により教育プログラムとしての確認をして、改善・向上について引き続き検討していく。

④ 学生アンケート等を通じた他の学生への推奨度

全学的な学生アンケート調査に DSAB に関する特別な項目はなく、DSAB の履修登録をしていない学生からの要望等は把握できていない。ウェブページやパンフレット等の作成により一定の広報(推奨)効果があると思われるが、経営学部における履修率向上に向けた改善について引き続き検討していく。

⑤ 履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

昨年度(履修登録者数は 56 名)に比べ、履修登録者は約 12%増えており、履修率も目標の 2.5%をやや上回った(経営学部生 2,441 名中の履修登録者数 63 名は約 2.6%)。今後もさらなる学生への周知を進め、履修率について一層の向上を目指す。

2. 学外からの視点

① 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

2022年度から本教育プログラムの運用を開始したため、今後分析に適する修了者数となる年度に向けて、各項目についての把握の準備に入る。

② 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本委員会主催のFD開催時における学外講師からの評価、関連する学外の産業界が主体となる団体との交流、学会などでの意見交換、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムのワークショップなどにより、本教育プログラムの学外からの視点を確認し、改善に向けてFD等を通じ関連する教員に引き続き周知を図っている。

IV. DSAE および DSAB の共通項目

1. 実データ、実課題を用いた演習など、社会での実例を題材とした教育を行うこと

本年度に実施した担当教員アンケート調査の結果から、「実データ、実課題を用いた演習など、社会での実例を題材とした教育を行うことに」について、回答した5名の教員のうち4名が対応していることを確認した。今後とも担当教員へのFD等を実施し、現実の課題へのアプローチ方法および数理・データサイエンス・AIの適切な活用法を学ぶことに関する教育方法等を改善・向上させていくことが課題である。

2. 各専門分野の特性に応じた演習やPBL等を効果的に組み入れること

本年度に実施した担当教員アンケート調査の結果から、「各専門分野の特性に応じた演習やPBL等を効果的に組み入れること」について、回答した5名の教員のうち4名が対応している（「部分的に対応している」を含む）ことを確認した。今後とも担当教員へのFD等を実施し、実践的スキルの習得を目指した推奨を含めた教育方法等を改善・向上させていくことが課題である。

以上